

### 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する調査

～開催まで 1000 日、今の気持ちは～

○開催が近づいている「実感がわいてきた」「やや実感がわいてきた」は 20.9%

○関心のある競技は、オリンピックは「陸上」「体操」「水泳」  
パラリンピックは「車いすテニス」「車いすバスケットボール」「パラ陸上」

○開催をきっかけに、「日本経済の活性化」(52.0%)、「日本人選手の活躍やメダルの獲得により日本が元気になること」(51.3%)に期待

○開催を通じて海外に伝えたいことは、「日本の伝統文化や伝統技能」(53.6%)

株式会社ジェイティービー（東京都品川区、代表取締役社長：高橋 広行）は、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する調査」を実施しました。

今年の 10 月 28 日と 11 月 29 日で東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催 1000 日前を迎えました。ボランティア用ユニフォームの発表や競技会場決定などの関連情報ならびにスポンサーによる広告などで、メディアへの露出も徐々に増えてきました。

しかし、一般の人びとにとっては 1000 日前といっても、直接関わりを持つ機会がなければ、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会がいよいよ近づいているという実感は薄いのが現状ではないかと思われます。これから、2020 年に近づくにつれて変わっていくことが予想されますが、2020 年までの 3 年間は意外と短く、またこの 3 年間は開催の有無にかかわらず、自動運転車の実用化やシェア経済の広がりなどのテクノロジーの進化により、私たちの生活そして価値観までもが大きく変わる可能性を秘めた期間でもあります。一方、高齢化社会は着実に進み、2020 年には日本の 65 歳以上の人口は、29.1%（内閣府平成 28 年版高齢社会白書）となると予測されています。こうした中、今回の調査では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に対する人々の気持ちや関わり方、ポスト 2020 を含めた社会や世界観について聞いてみました。

#### 【調査概要】

調査手法：インターネットアンケート調査

調査期間：2017 年 10 月 27 日～10 月 29 日

調査対象者：全国エリア(47 都道府県)に住む 18 歳～79 歳までの日本人男女 2,070 名

\*各地方に属する都道府県：北海道（北海道）、東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）  
関東地方（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川）中部地方（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重）、近畿地方（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）、中国地方（鳥取、島根、岡山、広島、山口）四国地方（徳島、香川、愛媛、高知）九州地方（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）

## 【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催の実感について】

### 1. 開催の「実感がわいてきた」は、3.0%、「やや実感がわいてきた」は、17.9%

調査対象者に、東京 2020 オリンピック開会式まで 1000 日を過ぎて、開催が近づいている実感があるか聞きました。全体では「あまり実感がわからない」が、47.2%でしたが、若い世代では、「やや実感がわいてきた」が、18 歳～19 歳では 22.1%、20 代では 21.3%となり、全体の 17.9%を上回りました。居住地による差には顕著なものはみられませんでした（図 1-1、1-2）。

「実感がわいてきた」「やや実感がわいてきた」と回答した人に実感がわいてきた理由を聞いたところ、「ニュースや関連広告が増えてきたので」が 81.8%でした。地方別にみると「関連イベントの開催が増えてきたので」は、西日本で高い傾向にあります（図 2-1、2-2）。

「あまり実感がわからない」「まったく実感がわからない」と回答した人の実感がわからない理由は、「2020 年はまだ先だと思うので」が、18 歳～19 歳で 65.6%、20 代では 57.3%で、実感がわからないと思う若い世代は、3 年先を遠く感じているようです。「自分が住んでいる地域ではイベントの開催がないので」は、関東地方はほかの地方より低い結果となりました（図 3-1、3-2）。

図 1-1 開催が近づいてきた実感(年代別)

(単一回答)

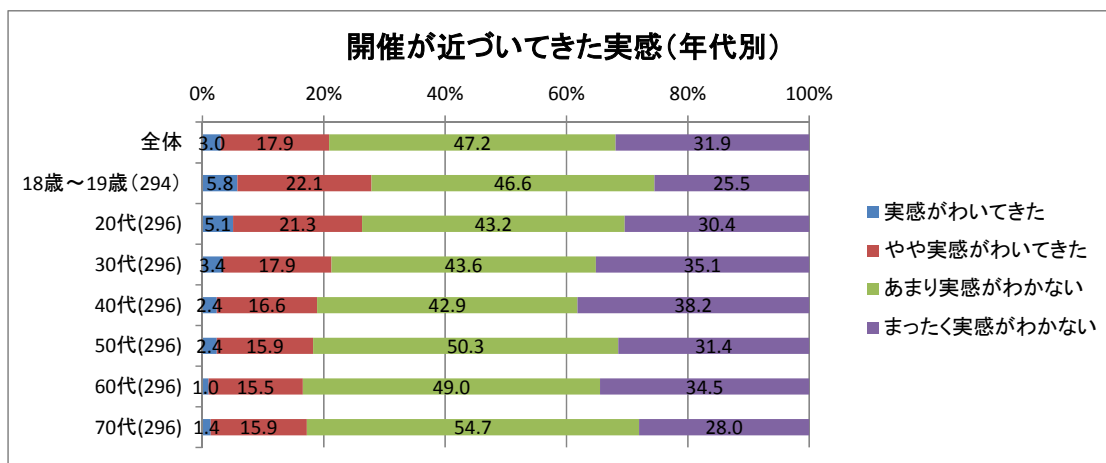


図 1-2 開催が近づいてきた実感(居住地域別)

(単一回答)

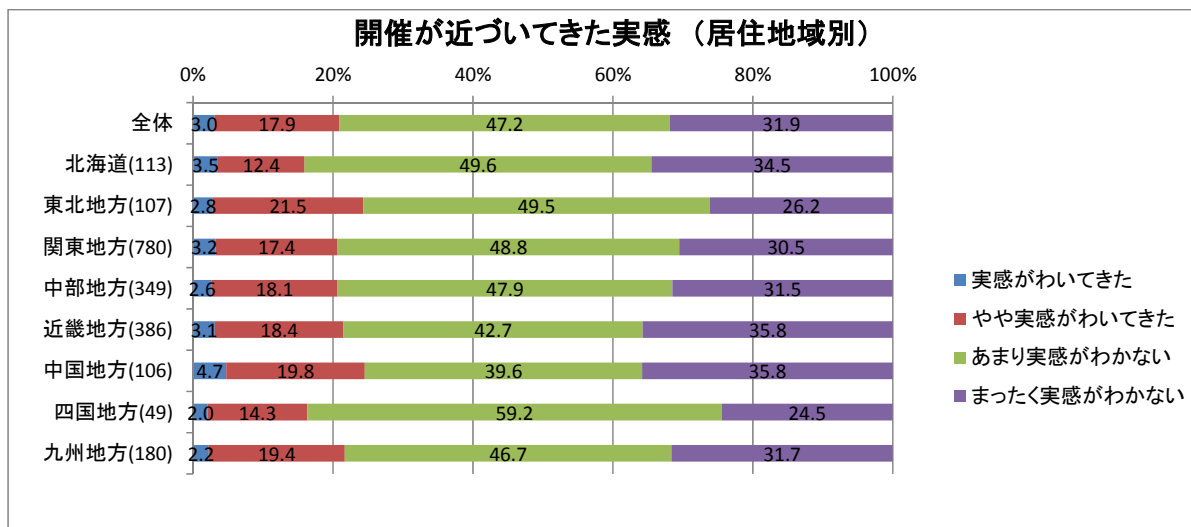


図 2-1 実感がわいてきた理由（年代別）

（複数回答）

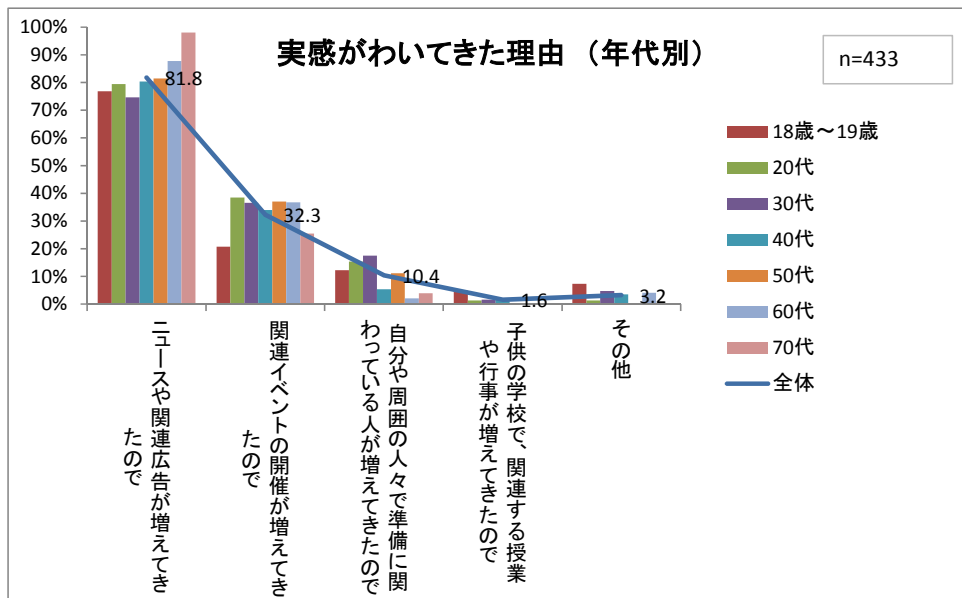


図 2-2 実感がわいてきた理由（居住地域別）

（複数回答）

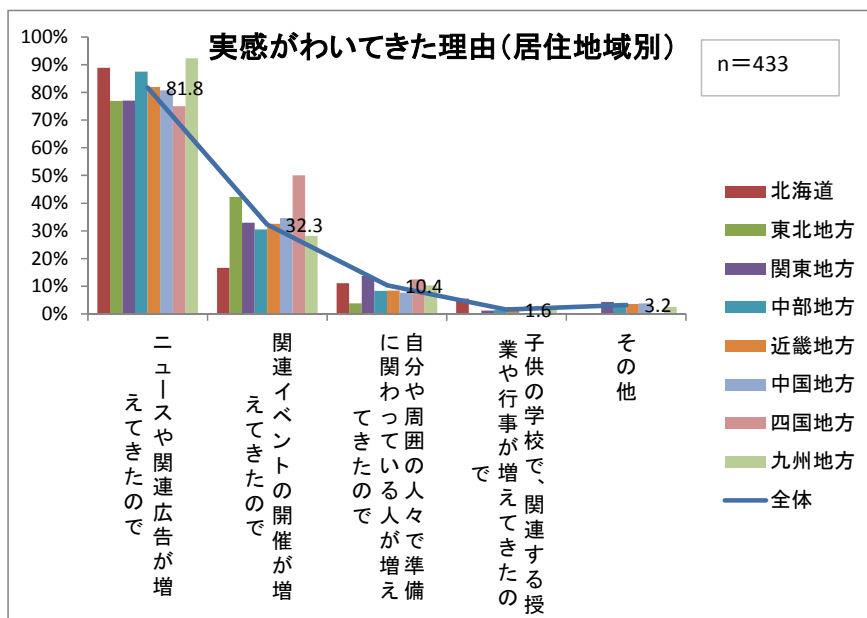


図 3-1 実感がわかない理由（年代別）

（複数回答）

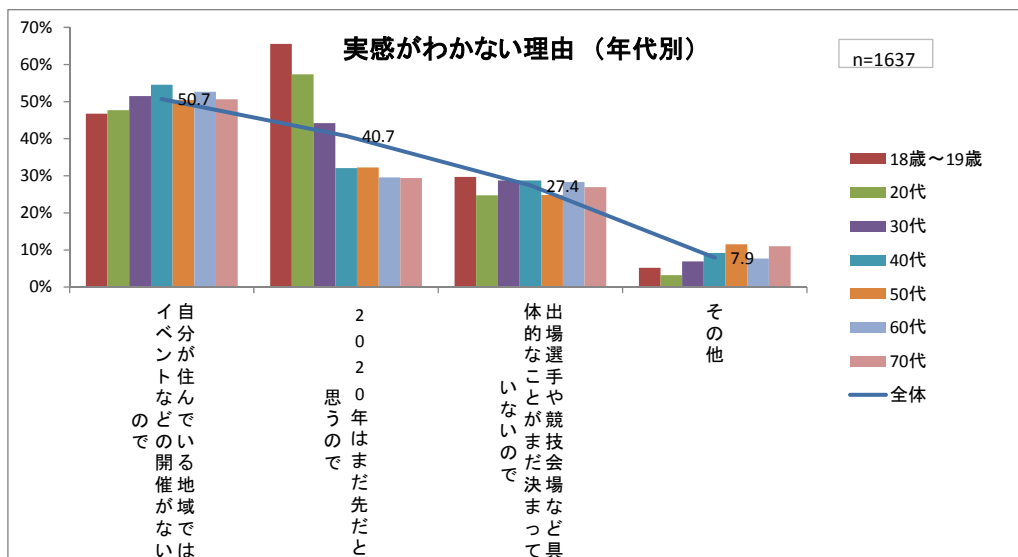
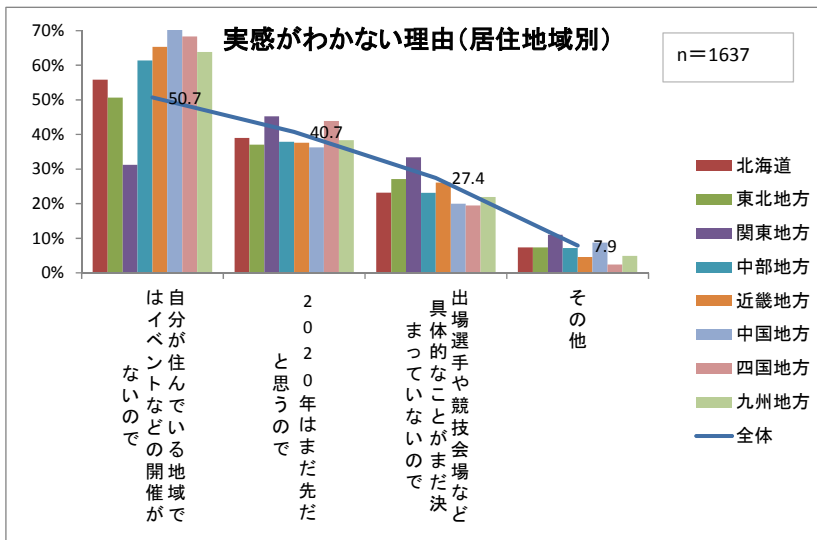


図 3-2 実感がわからない理由(居住地域別) (複数回答)



2. 開催までにあるとよいと思うイベントは、「自分の住んでいる街で開催されるイベント」が 34.6%

「新しくオリンピックに採用された競技に関するイベント」や「障がい者スポーツを見たり体験したりできるイベント」「日本の現代アートに触れられるイベント」は若い世代で興味あり

実感がわいてきた理由のうち「関連イベントの開催が増えたので」は 32.3% でした (図 2-1、2-2)。これから開催までにあるとよいと思うイベントをきいてみたところ、「自分の住んでいる街で開催されるイベント」が 34.6% でした (図 4-1、4-2)。居住地域別では、「自分の住んでいる街で開催されるイベント」が地方で高い傾向にありました (図 4-2)。「新しくオリンピックに採用された競技に関するイベント」は若い世代 (18 歳～19 歳 35.0%、20 代 26.4%) で全体の 20.2% より高く、「障がい者スポーツを見たり体験したりできるイベント」も全体では 12.8% ですが、18 歳～19 歳は 18.4%、20 代は 16.9%、30 代は 13.9% でした (図 4-1)。若い世代が、新しく採用された競技や、障がい者スポーツに関するイベントに興味を持っている様子が見えてくる結果となりました。

図 4-1 開催までにあるとよいと思うイベント (年代別) (複数回答)

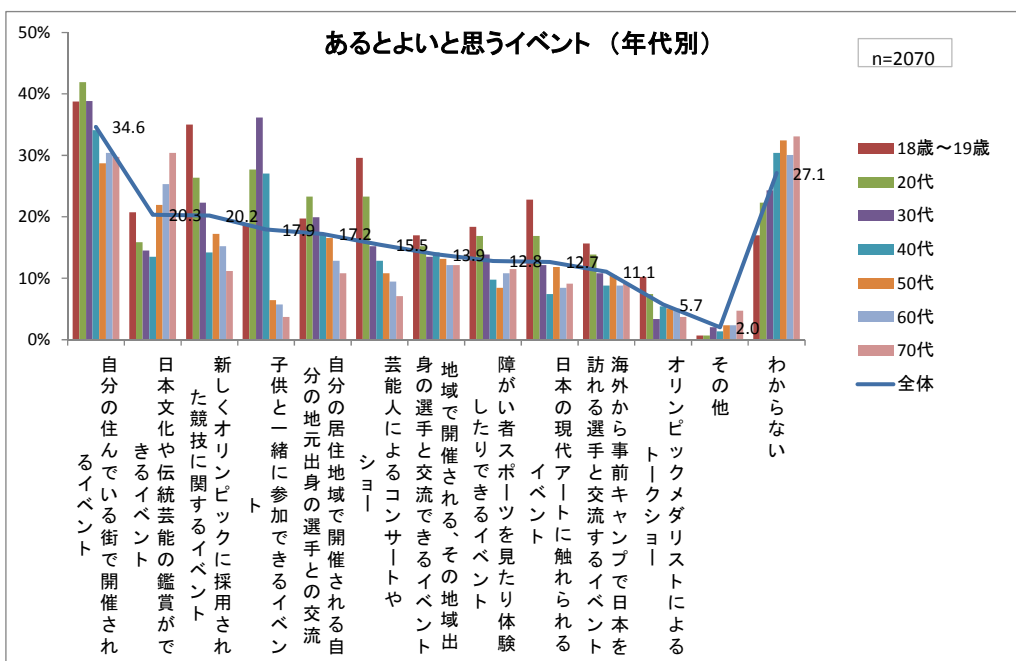
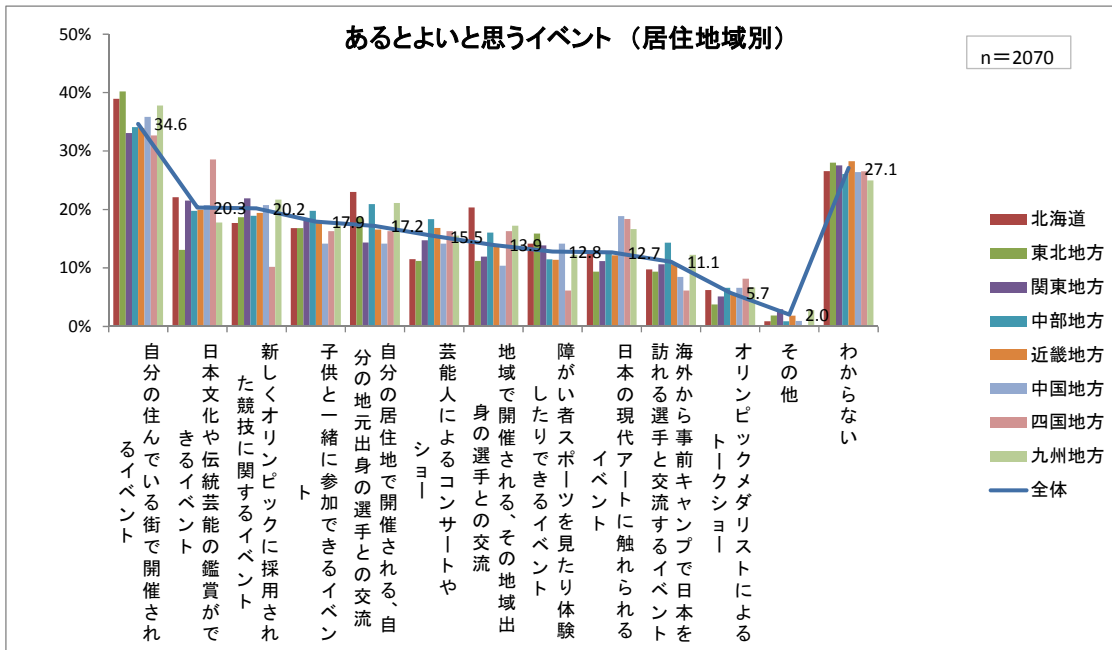


図 4-2 開催までにあるとよいと思うイベント（居住地域別）

（複数回答）



【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で関心のある競技】

3. 関心のある競技は、オリンピックでは、陸上、体操、水泳。パラリンピックでは、車いすテニス、車いすバスケットボール、パラ陸上競技

東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、オリンピックで 33 競技、パラリンピックで 22 競技が開催されます。関心がある競技は何か聞いてみました。それぞれ 4 つ選んでもらったところ、オリンピックでは、陸上、体操、水泳が多い結果となりました（表 1）。パラリンピック競技では、車いすテニス、車いすバスケットボール、パラ陸上競技でした（表 2）。関心のある理由は、いずれも「観戦するのが好き」「日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である」が高くなりましたが、「自分がしている競技である」は、若い世代を中心にバドミントン、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、ホッケーなどで高い結果となっています（表 3）。関心の度合いを聞いたところ、「競技場に行って応援したい」が 20%以上となった競技は、バスケットボール、野球・ソフトボール、自転車競技、ラグビー、スポーツクライミング、ボクシングなどでした。リアルな観戦で、より盛り上がるスポーツが選ばれているようです（表 4）。競技に関心を持ってもらうためには、どのようなことをしたらよいと思うか聞いてみたところ、「試合会場などで選手と交流できる場を設ける」、「学校や地域コミュニティで競技を体験できる場を設ける」が若い世代で多く、交流や体験に積極的な様子が見えられます。交流・体験イベントはまず若者をターゲットにすることも有効なのではないでしょうか（図 5-1、5-2）。

表 1 オリンピックで関心のある競技 4つ選んだ上位 10 競技（33 競技中）

	全体	陸上競技 (マラソン、競歩、フィールド競技を含む)	体操(新体操、トランポリンを含む)	水泳(飛び込み、シンクロ、水球、マラソンスイミングを含む)	野球・ソフトボール	柔道	サッカー	卓球	バレーボール(ビーチバレーボールを含む)	レスリング	テニス
全体	2070	39.0	38.3	38.0	25.5	21.8	20.5	20.4	14.3	14.1	11.8
18歳～19歳	294	31.0	26.2	37.4	24.8	11.6	19.0	22.4	20.1	12.9	16.0
20代	296	30.7	27.4	33.8	27.4	14.5	22.6	16.9	19.9	17.9	12.8
30代	296	32.8	30.4	32.4	23.3	22.0	26.7	15.5	11.8	12.8	10.8
40代	296	38.2	31.1	36.8	28.0	28.0	22.3	16.9	11.1	14.2	11.1
50代	296	41.9	44.3	36.8	25.7	26.4	19.6	17.6	15.9	14.5	8.4
60代	296	47.6	55.7	40.5	23.6	22.3	18.9	25.7	10.8	11.8	10.8
70代	296	51.0	52.7	48.3	25.3	27.7	14.5	28.0	10.1	14.5	12.8

表2 パラリンピックで関心のある競技 4つ選んだ上位 10 競技 (22 競技中)

	全体	車いすテニス	車いすバスケボール	パラ陸上競技	パラ水泳	バドミントン	柔道	卓球	アーチェリー	トライアスロン	5人制サッカー
全体	2070	41.0	35.3	20.6	16.6	11.5	10.5	10.3	10.1	9.8	9.4
18歳～19歳	294	38.4	41.8	16.3	11.2	17.3	7.5	13.3	11.2	8.5	10.9
20代	296	36.8	37.2	12.5	11.1	14.9	9.1	7.1	7.8	10.1	10.8
30代	296	34.1	32.4	18.2	15.5	10.1	7.4	7.4	10.1	9.1	11.5
40代	296	43.6	34.8	16.2	15.2	8.8	12.8	8.4	5.7	10.1	6.8
50代	296	47.0	36.5	19.6	14.2	8.8	8.8	6.8	8.8	10.1	7.1
60代	296	44.9	32.8	27.7	22.0	10.5	11.5	10.8	14.2	9.5	9.1
70代	296	42.2	31.8	33.4	27.0	10.1	16.2	18.6	13.2	10.8	9.8

表3 関心のある理由で「自分がしている競技である」が多い競技の例 (オリンピック)

	【バドミントン】					【野球・ソフトボール】					【バスケットボール(3×3(3人制バスケットボール)を含む)】							
	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他
全体	172	24.4	48.8	20.3	42.4	2.9	527	12.9	71.3	15.0	40.0	0.8	85	24.7	84.7	9.4	1.2	3.5
18歳～19歳	42	35.7	64.3	28.6	35.7	0.0	73	30.1	76.7	31.5	31.5	1.4	30	30.0	86.7	10.0	0.0	3.3
20代	22	40.9	54.5	13.6	22.7	4.5	81	19.8	79.0	22.2	28.4	0.0	20	15.0	95.0	5.0	0.0	5.0
30代	21	28.6	52.4	19.0	52.4	0.0	69	14.5	76.8	13.0	33.3	1.4	16	31.3	81.3	6.3	0.0	0.0
40代	26	19.2	38.5	19.2	38.5	7.7	83	9.6	71.1	14.5	41.0	0.0	11	18.2	90.9	9.1	9.1	0.0
50代	18	11.1	50.0	11.1	55.6	5.6	76	3.9	69.7	10.5	48.7	0.0	5	40.0	60.0	0.0	0.0	20.0
60代	23	13.0	39.1	26.1	43.5	0.0	70	5.7	57.1	7.1	50.0	0.0	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
70代	20	10.0	30.0	15.0	60.0	5.0	75	6.7	68.0	5.3	48.0	2.7	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

	【サッカー】					【ハンドボール】					【ホッケー】							
	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他	全体	自分がしている競技である	観戦するのが好き	応援している選手がいる	日本人選手のメダル獲得が期待できる競技である	その他
全体	425	11.3	83.8	16.5	8.9	2.4	18	22.2	55.6	16.7	5.6	11.1	9	22.2	44.4	33.3	22.2	11.1
18歳～19歳	56	30.4	75.0	25.0	1.8	5.4	6	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	3	33.3	0.0	100.0	33.3	0.0
20代	67	13.4	88.1	20.9	7.5	1.5	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
30代	79	16.5	82.3	15.2	8.9	0.0	4	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0
40代	66	7.6	84.8	13.6	4.5	6.1	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
50代	58	1.7	82.8	13.8	13.8	3.4	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	56	3.6	85.7	12.5	14.3	0.0	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70代	43	2.3	88.4	14.0	14.0	0.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表4 「競技場に行って応援したい」が20%以上の競技の例 (オリンピック)

	【野球・ソフトボール】				【バスケットボール(3×3(3人制バスケットボール)を含む)】				【ボクシング】			
	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい
全体	527	29.4	64.7	5.9	85	32.9	60.0	7.1	63	22.2	69.8	7.9
18歳～19歳	73	41.1	53.4	5.5	30	30.0	63.3	6.7	14	21.4	71.4	7.1
20代	81	37.0	55.6	7.4	20	35.0	55.0	10.0	14	7.1	85.7	7.1
30代	69	31.9	56.5	11.6	16	37.5	56.3	6.3	8	37.5	50.0	12.5
40代	83	37.3	59.0	3.6	11	45.5	54.5	0.0	12	33.3	50.0	16.7
50代	76	25.0	71.1	3.9	5	0.0	80.0	20.0	4	50.0	50.0	0.0
60代	70	17.1	78.6	4.3	2	50.0	50.0	0.0	6	16.7	83.3	0.0
70代	75	14.7	80.0	5.3	1	0.0	100.0	0.0	5	0.0	100.0	0.0

	【自転車競技】				【ラグビー】				【スポーツクライミング】			
	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい	全体	競技場に行って応援したい	テレビ観戦でよい	結果がわかればよい
全体	40	27.5	52.5	20.0	64	26.6	70.3	3.1	97	23.7	63.9	12.4
18歳～19歳	10	10.0	60.0	30.0	6	16.7	83.3	0.0	13	15.4	69.2	15.4
20代	2	50.0	0.0	50.0	8	50.0	50.0	0.0	18	50.0	44.4	5.6
30代	8	25.0	62.5	12.5	10	20.0	70.0	10.0	19	10.5	68.4	21.1
40代	11	36.4	45.5	18.2	11	45.5	54.5	0.0	6	50.0	33.3	16.7
50代	4	25.0	50.0	25.0	11	18.2	72.7	9.1	14	28.6	50.0	21.4
60代	1	100.0	0.0	0.0	9	11.1	88.9	0.0	17	11.8	82.4	5.9
70代	4	25.0	75.0	0.0	9	22.2	77.8	0.0	10	10.0	90.0	0.0



図 5-1 競技に関心を持ってもらうには（年代別）

（複数回答）

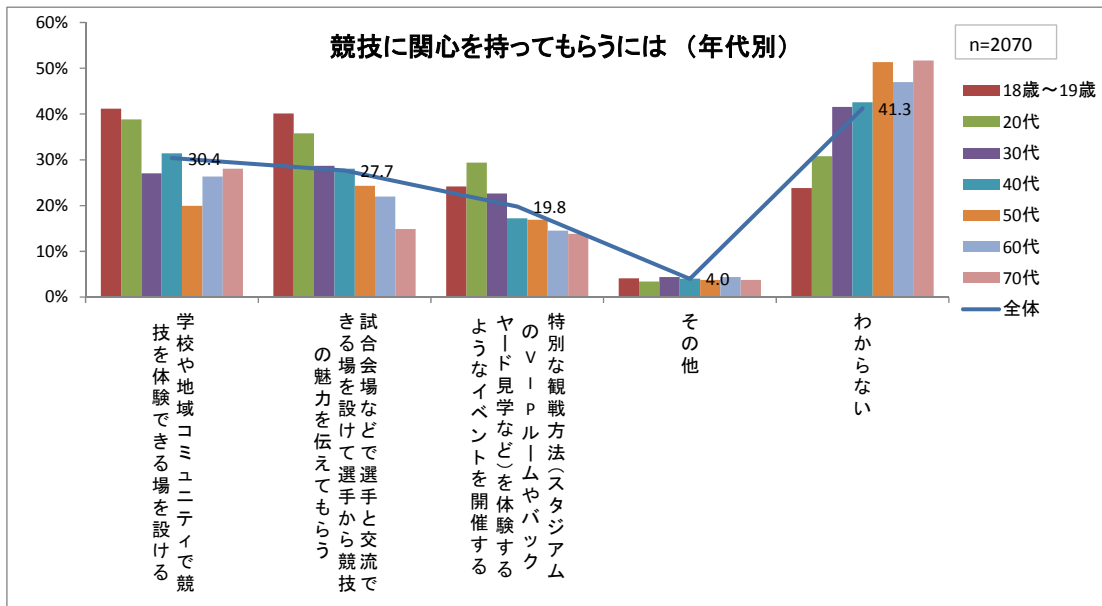
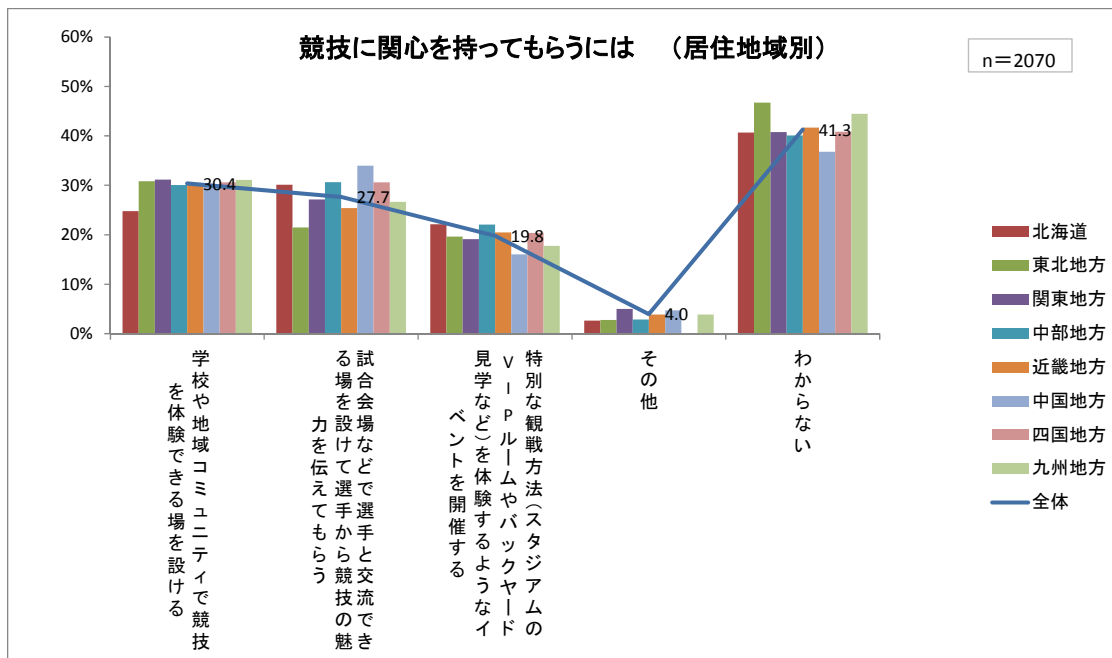


図 5-2 競技に関心を持ってもらうには（居住地域別）

（複数回答）



【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中の過ごし方】

4. 開催時期中は、「家でテレビなどで競技を観戦している」が 65.8%

期間中、どこで何をしていると思うか聞いたところ、「家でテレビなどで競技を観戦している」が 65.8% でした（図 6-1、6-2）。オリンピック、パラリンピックの観戦の方法については、年代別でも地方別でも「テレビで観戦する」が最多で、93.3%でした（図 7-1、7-2）。現在は、競技スケジュールの詳細やチケットの入手方法などの詳細が決定していないので、とりあえずテレビ観戦はする、という回答であると考えられます。地域別でみると、「実際に競技場に見に行く」、は関東地方では多いですがその他の地方では少なく、現段階では、地域から開催地に出かけて行って観戦すると考えている人は少ないようです（図 7-2）。観戦以外の関わり方については、「特に関わっていないと思う」が 78.0%でした（図 8-1、8-2）。

図 6-1 期間中何をしているか (年代別) (複数回答)

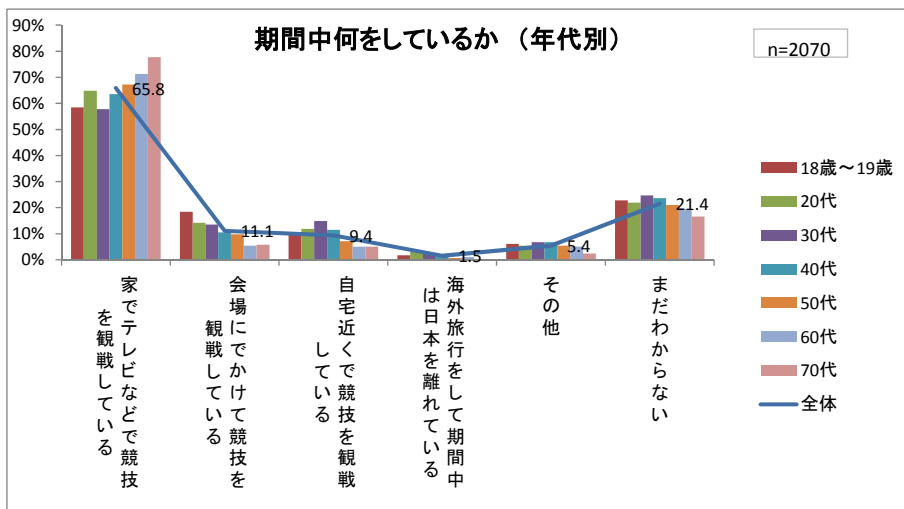


図 6-2 期間中何をしているか (居住地域別) (複数回答)

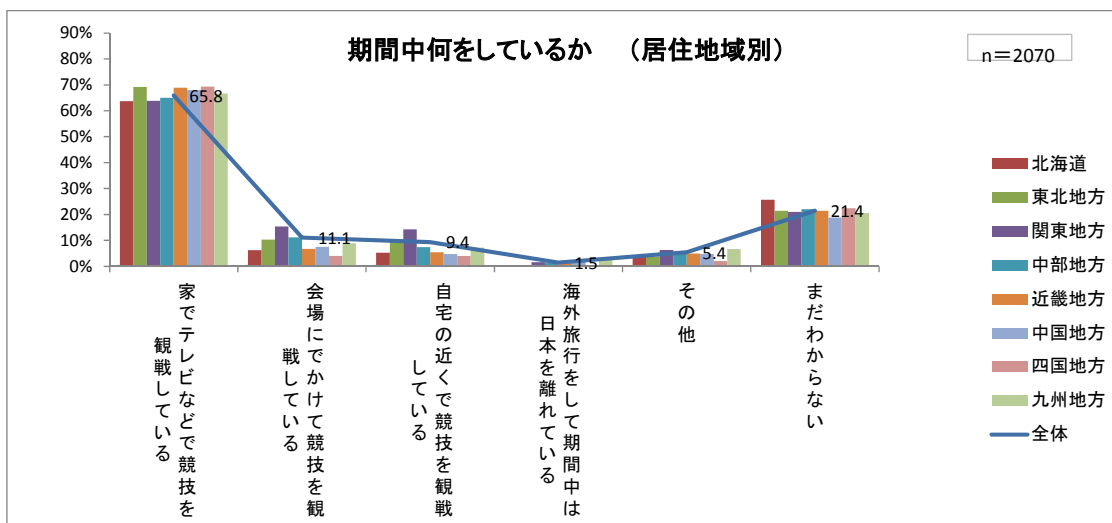


図 7-1 観戦の方法 (年代別) (複数回答)

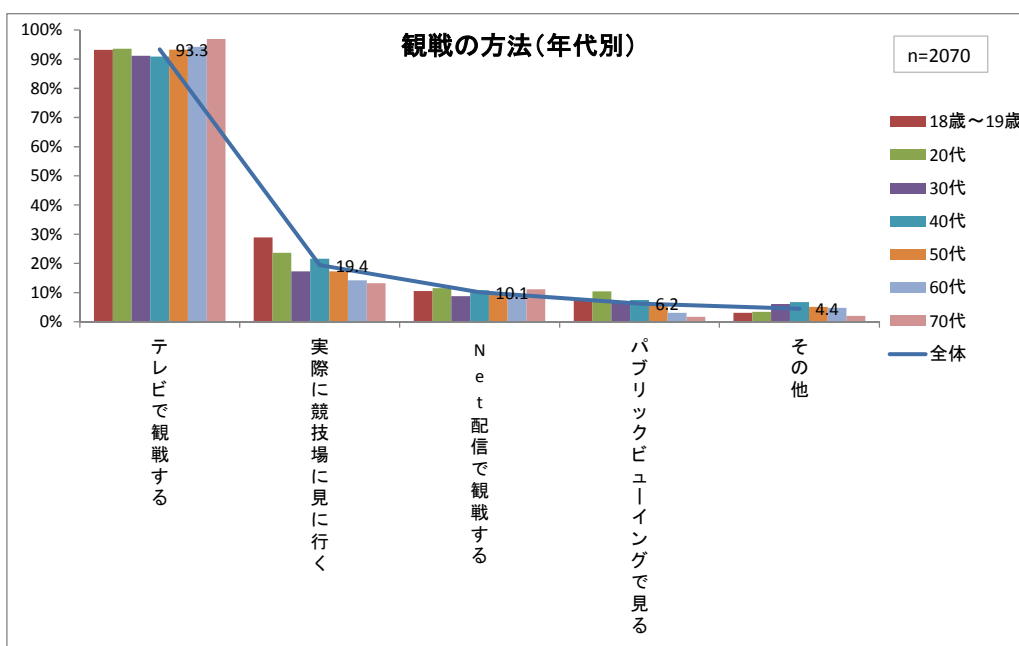




図 7-2 観戦の方法（居住地域別）

（複数回答）

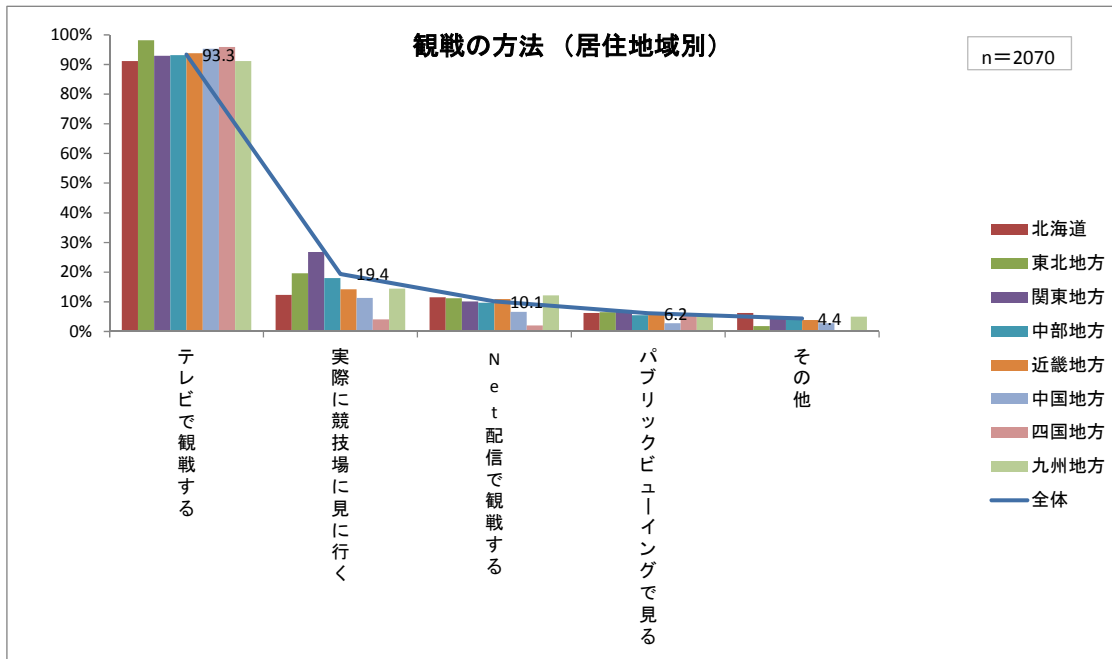


図 8-1 観戦以外の関わり方（年代別）

（複数回答）

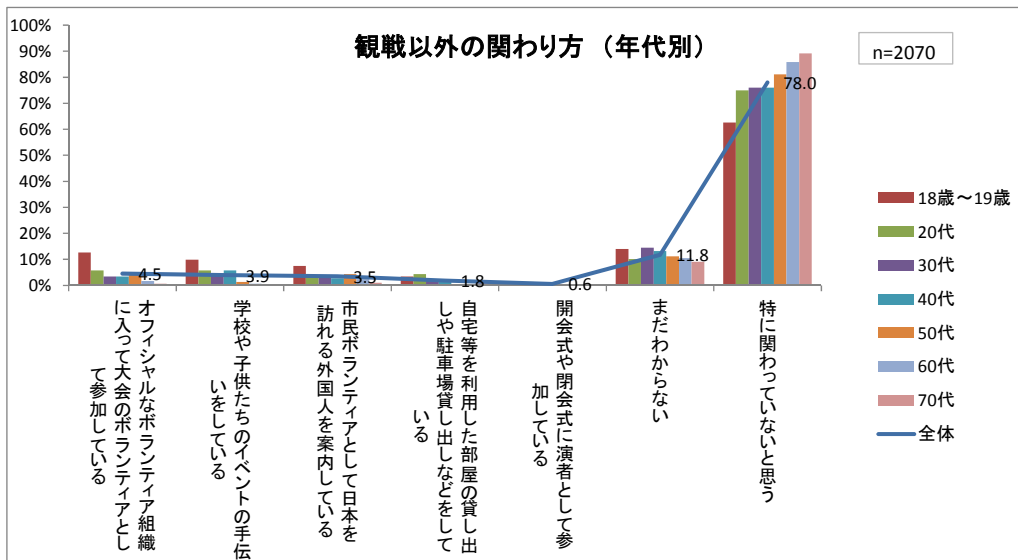
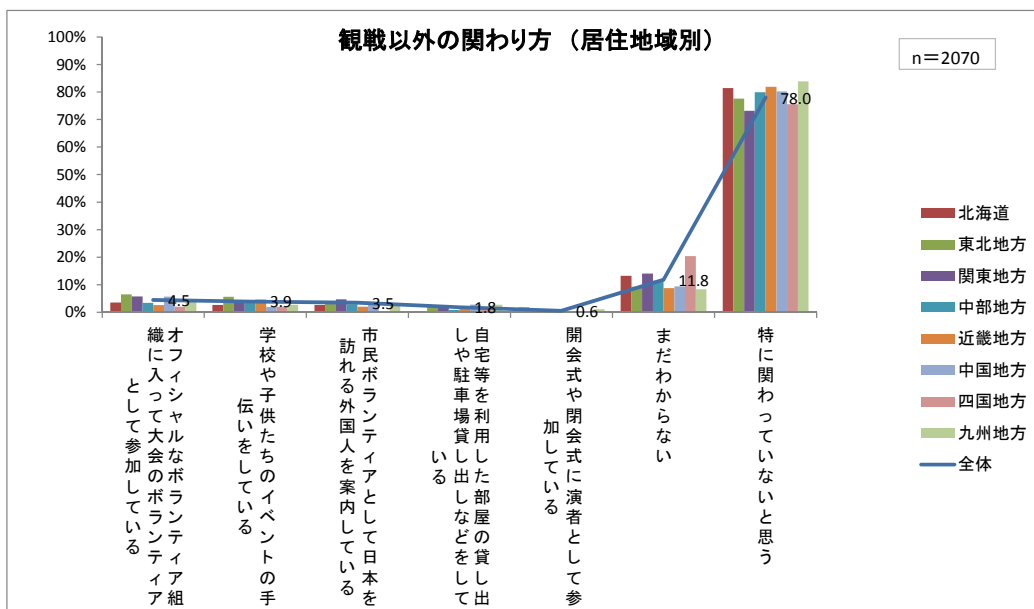


図 8-2 観戦以外の関わり方（居住地域別）

（複数回答）



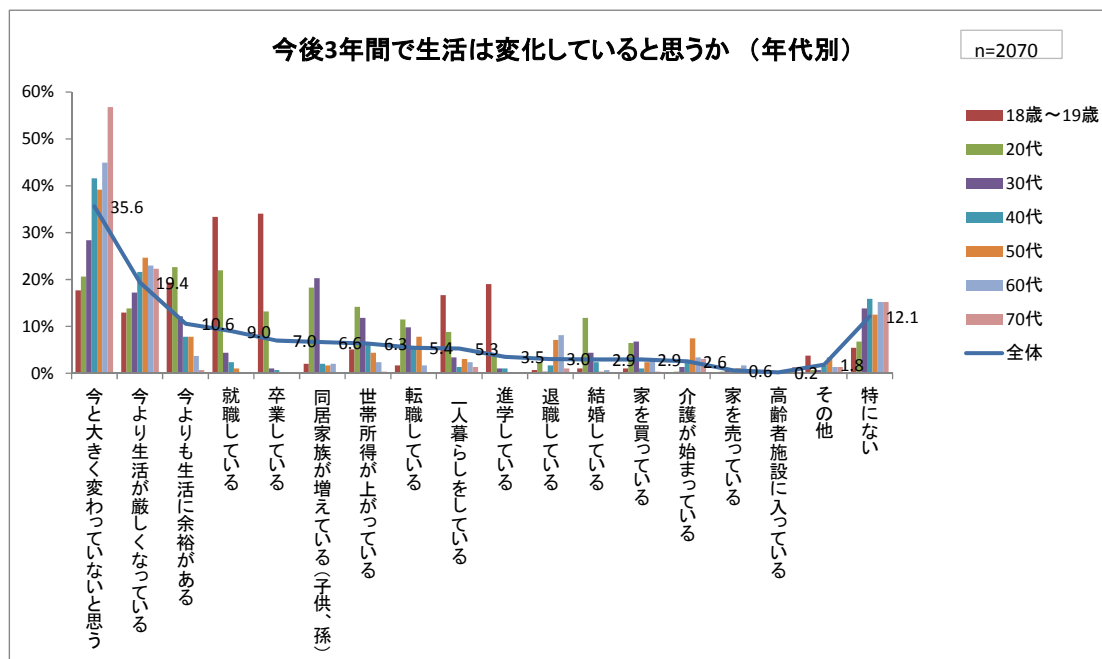
## 【東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会とあなたの生活や日本の社会について】

### 5. これからの3年間の自分の生活の変化は、「今と大きく変わっていない」(35.6%)

オリンピック・パラリンピック競技大会の開催と関わりなく、2020年までの3年間に自分の生活にどんな変化があると思うかについて聞いてみたところ、「今と大きく変わっていないと思う」は、18歳～19歳では17.7%、20代は20.6%、60代は44.9%、70代は56.8%で、年代が高いほど生活に変化はないと考えている傾向があります。金銭的な面においては、「今よりも生活が厳しくなっている」は、50代が最も高く、「今よりも生活に余裕がある」は、全体の10.6%に対し、18歳～19歳で19.4%、20代は22.6%と若い世代で高くなりました（図9）。

図9 今後3年間で生活は変化していると思うか（年代別）

（複数回答）



### 6. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催をきっかけにした日本の社会の変化に期待すること、懸念すること

次に、開催をきっかけにした日本の社会の変化で「期待すること」、「懸念すること」は何か聞いてみました。「期待すること」は、「日本経済の活性化」(52.0%)や「日本人選手の活躍やメダルの獲得により日本が元気になること」(51.3%)（図10）、「懸念すること」は、「治安の悪化」(55.6%)や「終了後の日本の景気の悪化」(46.3%)（図11）で、今の気持ちとしては、開催をきっかけに日本が元気になってほしい一方、治安や、景気の悪化にも不安がある状態のようです。

開催期間中に多くの外国人が日本を訪れることで期待することについては、「日本経済の活性化」(59.4%)の次に「日本が平和であることを感じ、平和の大切さを認識してほしい」(40.7%)が多い結果となりました（図12）。一方で、懸念することでは、「治安の悪化」(60.4%)や「テロへの不安」(59.4%)が高く、日本の平和を感じてほしい一方で、多くの人が日本に集まることへの不安も感じています（図13）。

図 10 開催をきっかけにした日本の社会の変化で「期待すること」(年代別)(複数回答)

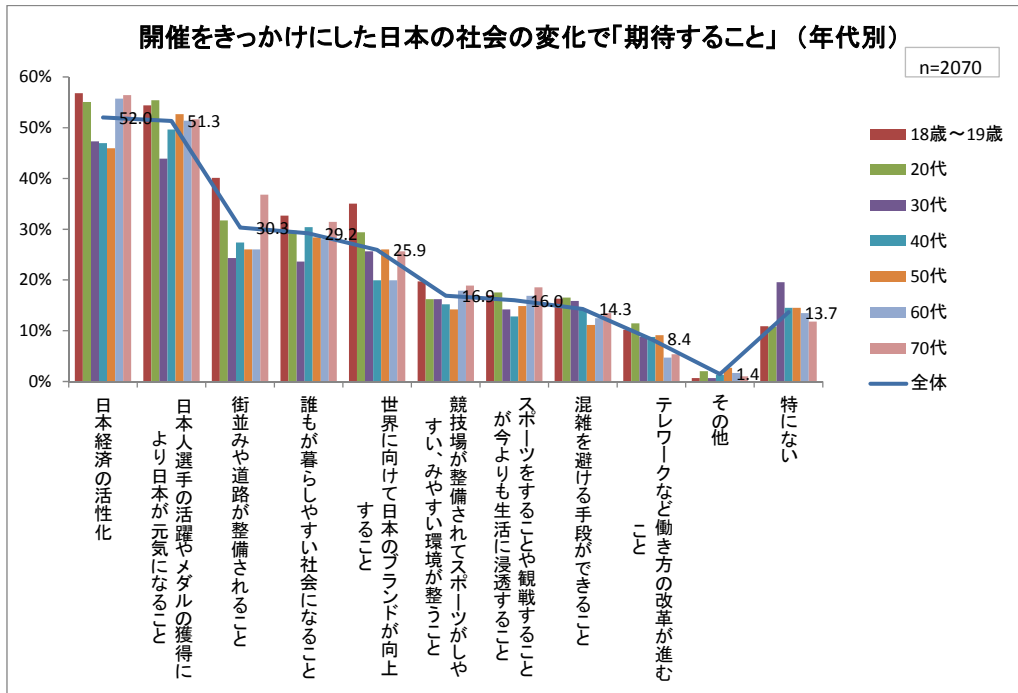


図 11 開催をきっかけにした日本の社会の変化で懸念すること(年代別)(複数回答)

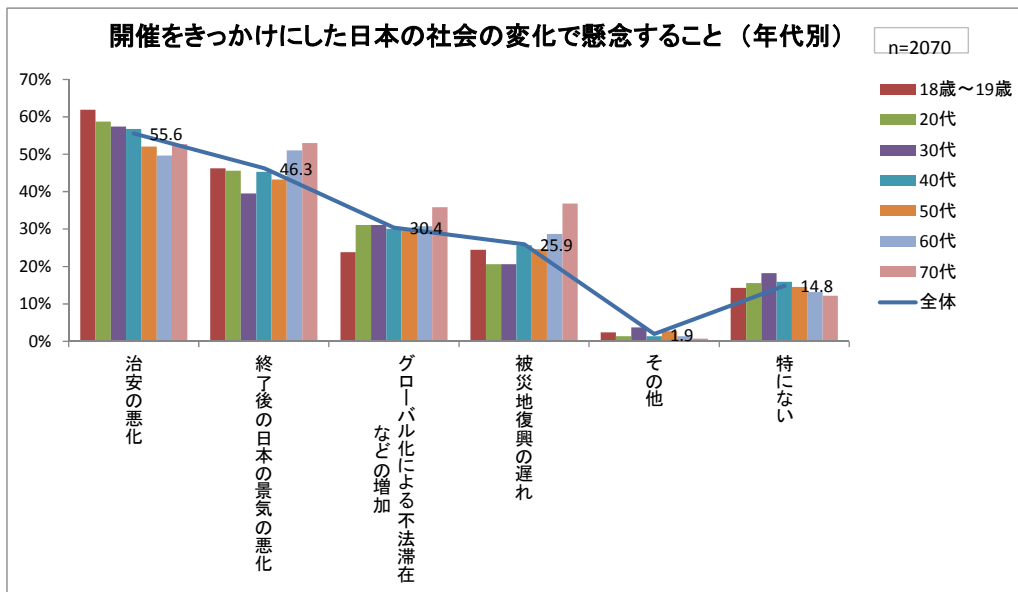


図 12 開催期間中に外国人が訪れることへの期待(年代別)(複数回答)

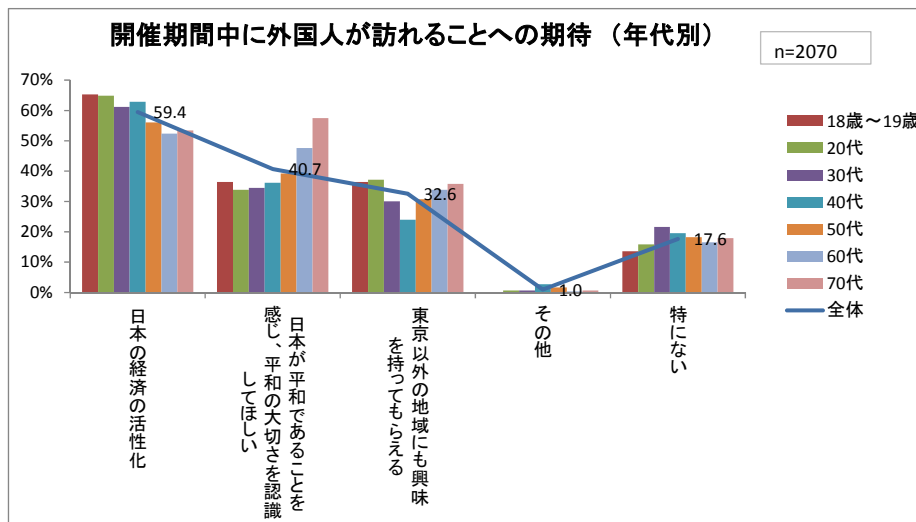
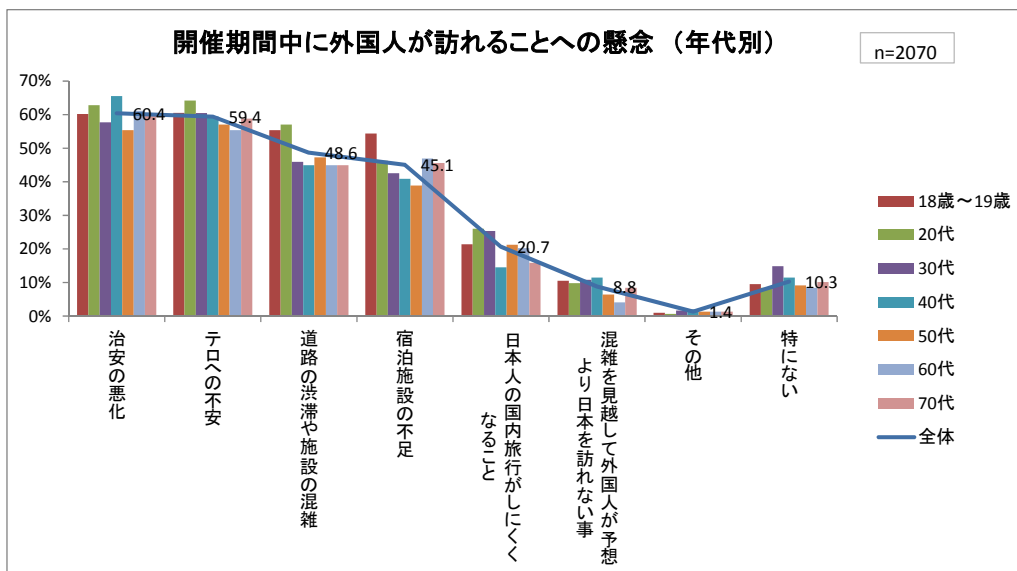


図 13 開催期間中に外国人が訪れることへの懸念（年代別）

（複数回答）



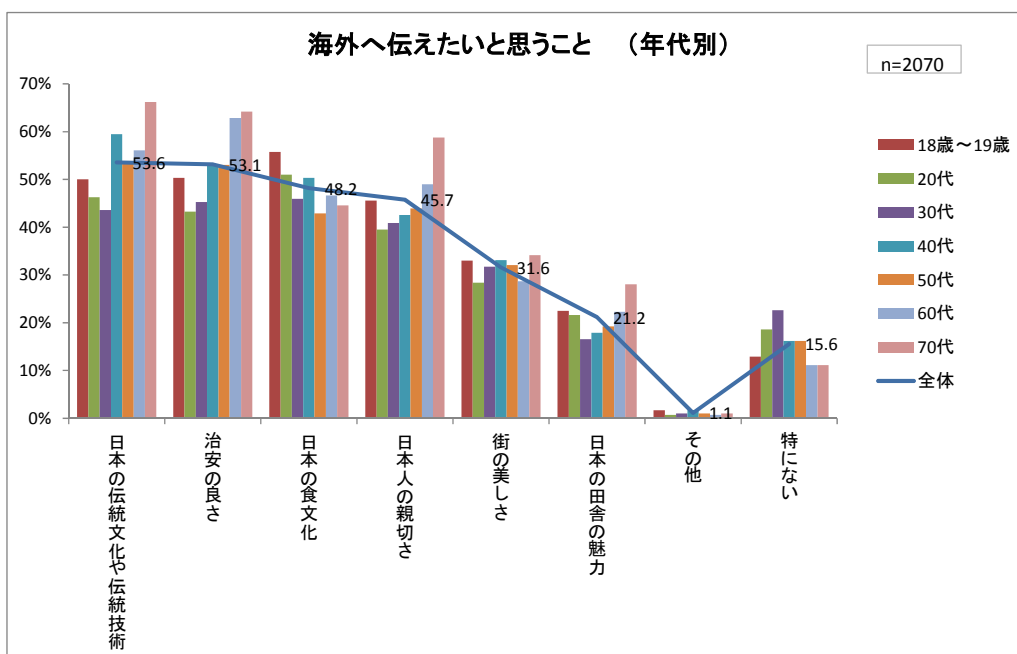
7. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催を通じて海外へ伝えたいと思うことは「日本の伝統文化や伝統技能」（53.6%）、「治安の良さ」（53.1%）

最後に、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催を通じて海外へ伝えたいことを聞いたところ、「日本の伝統文化や伝統技能」（53.6%）、「治安の良さ」（53.1%）が50%以上となりました（図 14）。

オリンピック・パラリンピックは、スポーツだけでなく、文化の祭典でもあります。東京 2020 参画プログラムの一つである「東京 2020 文化オリンピック」では、2020 年に向けて、あらゆる人々が参加できる多様な文化プログラムの開催が予定されています。プログラムへの参加などを通じて日本人が日本の文化を再認識し自信を持って自国の文化や伝統を海外に伝えることができるようになることも大切でしょう。

図 14 海外へ伝えたいと思うこと（年代別）

（複数回答）



＜報道関係の方からのお問い合わせ先＞  
JTB広報室 03-5796-5833